

國學院大學學術情報リポジトリ「K-RAIN」

國學院大學人間開発学部人間開発・花咲くプログラム「鎮守の森子ども・子育て支援」プロジェクト：
國學院大學人間開発学部学生による報告(平成二十二年度國學院大學人間開発学会第二回大会公開講演会・シンポジウム日本の伝統文化教育の可能性--人間開発学の基盤構築に向けて) --
(公開シンポジウム日本の伝統文化教育と人間開発学の構築--カリキュラム開発を視野に入れて)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學人間開発学会 公開日: 2023-02-06 キーワード: 作成者: 成田, 信子, 和田, 鈴加, 渡邊, 綾子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001204

國學院大學人間開発学部 人間開発・花咲くプログラム 「鎮守の森子ども・子育て支援」プロジェクト

國學院大學人間開発学部学生による報告

國學院大學人間開発学部 人間開発・花咲くプログラム

「鎮守の森子ども・子育て支援」プロジェクトの概要

本プロジェクトは、新しい「人づくり」を目指す学際的学問「人間開発学」を実践する試みであり、伝統に根ざした地域コミュニティ構築に寄与し得る人材や、現在都市化・少子化などにより「子ども・子育て支援」機能が衰退しつつある地域社会において適応可能な人材を育成することを目的とする。

日本の伝統的な共同体においては、今でも神社における祭礼や年中行事、人生儀礼が地域コミュニティ結合の重要な核となっており、日常的に神社の境内（鎮守の森）が様々な公共的機能を果たしてきた。本プロジェクトでは、こうした日本の伝統文化の知恵を、子育てや教育の視点から捉え直すことで、地域社会における伝統的な「子ども・子育て支援」のあり方のモデルケースを抽出して人材育成を図る。つまり、特に神奈川県内の地域社会の中心となっている複数の「鎮守の森」（神社境内）を有力な実践の（場）、拠点として捉え、各地の取組に教員・学生が参加し、さらには新しい子ども・子育て支援の取組を提案することによって、その担い手の人々と協働・連携し、地域社会における子育て支援の一端を担うしくみづくりに繋げることを目指すものである。

実施内容

① 鶴岡八幡宮子ども会「鶴の子会」（文化庁委嘱 財伝統文化活性化国民協会事業）夏期講座 平成二十二年度「鶴岡林間学校」学生ボランティア支援

日程 平成二十二年八月十九日（木）～二十五日（水）
会場 鶴岡八幡宮境内（神奈川県鎌倉市）

○ 國學院大學人間開発学部健康体育学科二年生一名が参加（八月十九、二十、二十四、二十五日の四日間）

② 寒川神社少年館「夏のお泊り会」学生ボランティア支援
日程 平成二十二年八月十七日（火）、十八日（水）

宿泊先 寒川神社少年館（神奈川県高座郡寒川町）

○ 國學院大學人間開発学部初等教育学科二年生三名が参加
③ 寒川神社少年館学生ボランティア支援（随時）

○ 國學院大學人間開発学部初等教育学科一年生二名が参加
④ 寒川神社第四十一回「相模薪能」鑑賞

日程 平成二十二年八月十五日
場所 寒川神社境内特設能舞台

○ 國學院大學人間開発学部教員・関係者含め、四名が鑑賞
※この他、平成二十二年十一月二十八日（日）に人間開発・花咲くプログラム「絵本キャラバン」プロジェクトが寒川神社

少年館文化祭に参加。

はじめに

成田 信子（國學院大學人間開発学部教授）

國學院大學人間開発学部は、本年度「鎮守の森子ども・子育て支援」プロジェクトという名前で、地域において子育ての機能に関わる中核的な役割を担って積極的に推進している神社（鶴岡八幡宮、寒川神社）と共同して、学生のボランティアを派遣するという事業をいたしました。鶴岡八幡宮の子ども会である「鶴の子会」の「鶴岡林間学校」には、本学部健康体育学科二年生が一名参加し、また、寒川神社については、本学部初等教育学科の二年生が三名、それから一年生が二名、「寒川神社少年館」で、小学生の子どもたちと共に過ごしました。

今回報告のある寒川神社の少年館について、簡単にご紹介いたします。昭和五十二年から、約三十年にわたって青少年の育成活動が続けてきています。「少年館」という専門の建物を持ち、体育、レクリエーション、行事、奉仕活動等をやっています。現在は六十七名の少年少女が、学校を終わった時間に通ってきておりまして、日曜・祝日を除く毎日、午後三時から五時までの間、剣道、茶道、美術、英語、写真、神道入門、俳句、音楽、料理などを行っています。

日常生活の中に、本学部初等教育学科一年生の二人が、八月から十月までの三カ月間、ボランティアとして参加して、学びを積み重ねてきましたので、ここで発表してほしいと思います。初等教育学科一年の、和田鈴加さんと、渡邊綾子さんです。宜しくお願いします。



報告1

和田鈴加（國學院大學人間開発学部初等教育学科一年）

私は、教室には書道に二回、剣道に一回、見学として、茶道に一回入らせていただきました。

剣道と茶道は、それぞれ男子と女子のみでやっている教室です。活動の内容としては、先生の補助ということで、子どもたちの間を回って、助言をしたり、それから話をしたり。その教室のあとには、子どもたちとボールを使って遊んだりとか、そういうこともしました。

子どもたちは、全体的に楽しそうに活動をやっていたように見えました。話しかけたら子どもたちはいろんな反応をしてくれて、褒めるとうれしそうにしてくれる子どももいましたし、反抗期なのか注意をされると、反発する子どももいました。まあ笑って調子に乗ったりする子どももいました。

その教室はすべて小学校の低学年から高学年までの子どもたちが、一年生から六年生まで全員混ざってやっていました。それで私たちと話をしたがる子というのはほとんど小さい子なのか。上の学年になるほどあまり話しかけてこないように思いました。それが、書道の教室の様子です。

剣道は、男の子だけだったんですけど、みんな活き活きとしていて運動が好きなのか、楽しそうにしていました。休憩中に一度ちょっとした質問を試みたら、こぞってそれに答えようとしてくれました。「どの学校？」って聞いて、「ぼく何か」とか、いろいろ子どもたちは言っていたんですけど、お互いに学校を知らなかった子もいて、子どもたちのちょっとした交流の

きっかけにもなったかな、とは思っています。

それから、先生方なのですが、先生方は技術、書道で字がうまく書けたりとか、そういうことを教えているというわけではなく、私からは、子どもたちにけじめをつけさせる、きちんとやる、取り組みということに重きを置いて教えていたように見受けられました。

子どもたちと関わっていて思ったことでは、まず、学校にいるときの子どもたちを見たことがないので、確かなことというのは言えないのですが、子どもたちは学校とは違って精神的に解放されて、それで自由な雰囲気だったような気がします。だから学校以外でやる、つまり環境を変えて取り組みというのは大切ではないかと思いました。

やはり学校とそれ以外の場所というのは違うので、そういう、違う場所でやるということは、やはり、子どもたちの新しい側面というのが見えてくると思います。それから、もちろん学校ではできないことをやるというのも大切だと思います。剣道や茶道のことなのですが、学校でもクラブ活動などはあるとは思いますが、きちんとした先生方にしっかり学ぶということとは大切だと思います。そういうふうにいるいろいろなことに挑戦するということは、大切だと思います。

それから、ボランティアをしてみても、そういうふうには普段小生と関わるような機会というのは、あまり私は無いので、大変いい勉強になりました。一年生から六年生まで、子どもたちはみんな同じ教室にいて学んでいたもので、やはり学年の違いによる接し方の違いというのは出てくるので、いろいろ考えさせられることはありました。

それから私は立場上、子どもがよくないことをしていても、あまり強く叱れるっていうことはできなかったんですけど、各教室の先生方は、きちんと叱っていたので、私も将来、ちゃんと叱れる、けじめをつけさせられる、そんな教師になりたいと思いました。そのためにはやはり、褒めるということも大切なので、そこは両方大切にして考えていきたいなと思います。

それから、これは以前から考えていたことではあるんですが、子どもたち一人一人に平等に接しなければならぬ、というふうに感じました。やはり言われたことをきちんとやらぬ子、いわゆる問題行動を起こす子、そういう子に目が行きがちになってしまふんですけれど、そこは、やはり難しいところなんですけど、努力をするべきところだと思います。

私の話は以上です。ありがとうございます。

報告2

渡邊綾子（國學院大學人間開発学部初等教育学科一年）

私はまず、講座についての話をしたいと思います。先ほども説明があったんですが、書道や茶道、吟道や絵などの各講座が開かれていて、それに、外部講師の先生が二、三人来てくださって、結構専門的な勉強というか、教養を学ぶというような講座でした。

その茶道にまず参加してみたいんですが、茶道というのはやったことがないので、全く指導ができなくて、「これが毎日続いたら私は何をしたらいいんだろう」と思って結構困っていたんですが、そのうち子どもたちも結構私に慣れてき

てくれて、二、三週間ぐらいしたら、もうみんな結構、本心でぶつかってきてくれるんで、結構けんかは目の前でするし、走り回るしで、大変でした。

そんな活動をしている中で、あんまり講座では、こちらから言えることはなかったんですが、日常の中で「廊下を走らない」とか、そういう注意をしている上で、一つ勉強になったことがあります。

廊下を走っているときに、一年生の子だったんですけど、「廊下を走らないで」と言ったら、「なんで走っちゃいけないの？」って言われて、何を言っても「なんで、なんで？」ってすぐなっちゃうんですね。その、「なんで？」って疑問に一つ答えていくっていうのも、大事なことなんだなっていうのを学習しました。

その経験から、子どもってというのは、頭ごなしに「これはしちゃいけない」と言っても、実は理解できていないのかなっていうのを思いました。だから、人に、怒ったり注意したりするときは、ちゃんと理由を説明して、「こうだからいけないだよ」というのをこれから言うようにしようと思いました。

では、今、映っているのが遠足の写真なんですけど、十月二十四日に、「辻堂海浜公園」というところに遠足に行っていました。

これは神社の参拝をしてから行ったんですけど、その参拝の様子ですね。六人から七人の生徒で一つの班に、もう決まっています、自由な班ではなくともと決まった班で、そこに少年館の先生が二人、そこに講師の、先ほど言った講座の先生が二人ぐらい付いて、だから、生徒が七人ぐらいいる中に大人が四

人いるっていう、結構大人が多い遠足でした。

ベテランの先生と私で、一つのグループを持って、行ってきたんですが、私は二班の担当だったので、割と集団の先頭を歩かなくちゃいけなくて、それで子どもたちっていうのは結構白線の外側に出たがるもので、車に引かれそうになったりとか結構あって大変だったんですが、それを後ろをいちいち振り返りながら注意するっていうのも、結構気を遣わなきゃいけないので大変なことなんだっていうのを学習しました。

「公共のマナー」というのがすごく悪くて、怒られてしまったんですが、電車の中でもかなり騒いでしまって、その車両から違う車両に移ってしまったお客さんもたくさんいらっしゃって、これは本当に申し訳なかったなって思っています。そういうこともこれからは事前にちゃんと注意して、気を付けるようにしたいと思います。

最後に、少年館は、学校でやる勉強は一切教えないんですけど、こういう各講座のような、「教養」といったものや、性格面でのしつけていうのを重視しているところなので、そういった何か別の教育、勉強じゃない教育っていうのもすごく大事なんだなって思いました。

だから私も、将来小学校の教員になろうと思っっているんですけど、なったときには、そういう内面的な教育と勉強の教育を両立していけたらいいなと思っています。

これで終わります。

